

## 第8回バス共創プラットフォーム 会議録（要旨）

### 1 日時

2026年（令和8年）2月6日（金）15：30～17：00

### 2 場所

福山市役所 議会棟3階 第5委員会室 福山市東桜町3番5号

### 3 出席者

#### (1) 委員（16名）

神田佑亮委員、鈴木春菜委員、大畑友紀委員、宇田雅英委員、神原昌弘委員、石川 亮委員、吉本伸久委員、冨田直也委員、久保辰己委員、小野裕之委員、藤原慎委員（代理）、佐野公章委員、今井宏委員、柴田益良委員（代理）、行迫孝治委員、難波和通委員

#### (2) 事務局（6名）

#### (3) 傍聴者（6名）

#### (4) 随行者（1名）

### 4 会議の成立

委員18名中、代理出席を含め16名出席で、委員の過半数が出席しているため、バス共創プラットフォーム設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立。

### 5 内容

#### (1) 説明内容

- ア 利用者拡大実証事業の報告について
- イ 今後の進め方について

#### (2) 意見交換

### 6 資料

- ・次第
- ・第8回バス共創プラットフォーム資料

### 7 協議内容

#### (1) 開会

#### (2) 説明内容

- ア 利用者拡大実証事業の報告について
- イ 今後の進め方について

- ・ 事務局から第8回バス共創プラットフォーム資料の説明を行った。

(3) 意見交換

- ・ 金曜日の利用が減少しているということだが、もともと金曜日の利用は多かったので伸びなかったのではないかと考えられる。土日の利用が少ないのは、便数が少ないことが原因として考えられる。運転手の数が限られており、通勤通学がない土日は便数を少なくしている。
- ・ 前回の無料ウィーク時は、行動履歴を確認できなかったが、今回の100円2ウィークスは、ICカードの利用が可能であったため行動履歴を確認することができ、乗り継ぎ利用の方も一定数いた。
- ・ 昨年度の無料ウィーク時はメディアも多かったが、今回はメディア露出が少なく、無料ウィークに比べるとインパクトは小さいと感じていた。今回の100円2ウィークスだと1.2倍の増加率で、大幅な変化とは言えないが、普段から乗っている方が乗ってくれたのではないかと思う。
- ・ 今回のように運賃が安くなるという利点を生かすためには、バスの使い方を公開するのも一つの方法だと思う。例えば、「どこかで行われているイベントに、バスでも行くことができ、バスであれば飲酒もできる。」というバスの乗り方を発信することも必要だろう。
- ・ 福山駅前のイベントや市内各所でのお祭りなどに合わせてバスを無料にするなども効果的である
- ・ 増便・新路線の実証事業について、1回の実施だけではなかなか分析が難しいと思う。長期的な取り組みも必要になるのではないか。
- ・ アンケート結果から、今回は70歳代の利用が多かったことが分かる。曜日別の利用者集計は出ているが、時間帯別の比較をしてみると気づきがあるかもしれない。日中の利用を増やしていきたいと考えており、効果的な方法を探していきたい。
- ・ 月曜日から木曜日のどの時間帯の利用が増えたかをみるとどのような層が使っているかが見えてくるはずである。おそらく買い物などでの利用が増えたのではないかと思うので、詳細な分析が必要である。
- ・ 100円2ウィークスの初日は事業のことを知らない人も多くいた印象である。情報発信の方法も工夫が必要と感じた。
- ・ 高齢者の利用が多かったということは、高齢の免許不保持者が増えているということかと思う。高齢者は若い人より情報が入るのが遅く、情報が入ってから行動に移すのが遅い。平日が増えているのは、高齢者は通院や買い物での利用が多いためだろう。病院などは金曜日が混雑するので金曜日を避けて利用したのかもしれない。
- ・ 資料16ページの結果から、普段乗る人が増えてきたのではないかと思う。
- ・ アンケートの回答者属性については、利用者ではなく、あくまで回答者の属性であることに注意が必要。
- ・ アンケートの回答手段も前回とは違い、アンケート回答に対する特典がなかった。今回は、特典がなくても回答するポジティブな層が回答してくれたが、前回と単純に比較するのは危険。
- ・ 夏休み時期はいい機会なので、バスを使って保護者と一緒に出掛けてもらう、市内を回ってもらう取組がいいのではないか。例えばオリエンテーリングと交通を掛け合わせた企画など。短期的な取組ではなく、中長期的な取組になるので、市町を跨いで広域で実施できれば県も連携できる。
- ・ 無料ウィークと100円2ウィークスはどちらも冬の時期に実施してきた。夏休みなど子どもが自由に行動でき、通学需要が落ちる時期に手を打つことはいいかもしれない。
- ・ 小さいときから利用することで、公共交通を使って移動することが文化として定着する。子どもたちが自身で移動しやすい環境を整えることが重要だと感じた。

- ・ 資料14ページにもあるように、無料時だと若い人が増え、100円時には高齢者が利用し始めた感覚はある。高齢者にアンケートを取ると、買い物や通院の移動が困難という声がある。乗合タクシーなどを導入しているが、その区域と路線バスとが連動できれば行動範囲が広がる。
- ・ 高齢者に配布されるおでかけ乗車券は、バスとタクシー両方使えるがタクシーで利用する人が多い。バスのみで利用できる券も配布するなど利用を促す必要もある。
- ・ 乗合タクシーを使ってバスとの結節点まで運ぶことは可能だと思う。空車で走っている車両をうまく活用したい。現状は50%程度の実車率をもっと向上させたい。
- ・ 資料23ページから、若い人は料金、高齢者は運行に興味を持つ傾向があるのかと思う。取組自体を知らなかったという声もあるので、次回は広報の仕方も工夫すべきである。
- ・ 福山市の観光資源を生かして、どこに行けばどんな体験ができるかも一緒に発信すべきだ。観光資源と結び付けてバス路線をPRする必要がある。利用者の目的は何か、を改めて考える必要がある。
- ・ 平日の日中、どこかで非日常を体験できる目的地をつくることで、もっと利用が増えるかもしれない。
- ・ 昨年から運行便数が減っているが、利用者数はそこまで減っていない印象である。平日の増加については、時間帯別の比較ができればより明確になると思う。1年で終わると効果が定着しない。3～5年継続すると定着する傾向にあるので、引き続き利用促進をやっていくことが大切。
- ・ 100円2ウィークスの期間でもこれだけ多くの人移動している。これをうまく他事業に波及される意味で連携できればよい。まちにとって、交通機関がこれだけ多くの人を輸送する武器であることをあらためて認識する必要がある。
- ・ 無料ウィーク、100円2ウィークスの取組は、利用者の増加や間口を広げることにつながっている。
- ・ 属性ごとに何を求めているか、それに対応することでいかに利用を定着させられるか、それを考えるフェーズにきている。イベント的にするのか、季節的な取組にするのか、通年で実施するのか、様々な検討が必要。